

令和6年度 自己評価表（最終評価）

鳥取県立鳥取西高等学校

教育目標	藩校「尚徳館」の「文武併進」の精神を受け継ぎ、高い志を持ち、幅広い教養を身につけ、社会の進歩・発展に貢献する創造性豊かな人間を育成する。	今年度の重点目標	『深い学び』『幅広い学び』を通じて新時代を創造するリーダーの育成を図る ① 学問の奥深さに触れ、深く学ぶことの喜びを実感できる授業を研究し、実践する。 ② 生徒が高い進路目標に挑戦しその目標を実現できるよう、戦略的に進路指導を進める。 ③ S S H事業やS G H関連事業を組織的に推進し、科学技術系人材やグローバル人材の育成を図る。 ④ 生徒の良識を培うと共に、挨拶を含め生徒の社会性を高める。 ⑤ 部活動に積極的に参加し上位大会を目指すと共に、その他スポーツ・文化芸術等各種大会・コンクール等へも積極的に挑戦する。
中長期目標	1 生徒が学問の意義に目覚め、深く学ぶことの喜びを実感できる質の高い教育を推進する。 2 生徒が確かな学力を身に付け、自己の将来像を描き、進路目標を実現できる教育を推進する。 3 生徒に良識を培い、自律と規範、自立と共生の精神を涵養することによって、社会のリーダーとなる素養を育てる。 4 教科の学習とともに、部活動や学校行事等の体験的活動への積極的参加を通じ、知徳体のバランスのとれた人間の育成を図る。		

評価基準 A:十分達成〔100%〕 B:概ね達成〔80%程度〕 C:変化の兆し〔60%程度〕 D:まだ不十分〔40%程度〕 E:目標・方策の見直し〔30%以下〕

年 度 当 初				評 価 結 果（2月）			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
深く学ぶことの喜びを実感できる授業の研究・実践	○学問の奥深さに触れられるような授業実践 ○協同的・対話的な学習、I C Tの主体的な活用 ○S S H/S G H事業の推進、課題研究の実践と改善	○生活評価アンケートで「高校での学習の深まりとともに、自ら学ぶ意欲が高まっている」とする生徒、授業アンケートで「授業で学びが深まった」とする生徒を、より高めたい。 ○授業研究会等は充実している、普段の授業改善は推進の余地がある。 ○授業でのI C T活用は一般的になったが、さらなる活用をはかりたい。 ○S S Hのアンケートにおいて「主体的に探究する力」が伸びているが、グローバルな視点での取組機会が減少した。	○生活評価・授業の両アンケートでの学びの充実に肯定的な回答が8割超を継続。 ○生徒が情報端末を授業などで有効に活用している。 ○E S D等の視点から、対話的・探究的な学びにより学問の奥深さに触れる課題研究が展開され、生徒の科学的な素養が高まり、グローバルな視野で物事を考えている生徒の割合が増加している。	○生徒の探究活動を推進し、課題研究の深まりに繋がるよう授業改善を行う。 ○課題研究メソッドやI C T機器を活用した課題研究・探究学習の方法を習得。 ○S S H等の研究開発を通した、生徒の主体的な探究学習の深化。	○生活評価アンケートで「高校での学習の深まりとともに、自ら学ぶ意欲が高まっている」など肯定的回答は平均87% ○教室PCが撤去されたものの、多くの教科でChromebookの活用が顕著にみられている。 ○授業研究会は実り大なるものであったが、授業見学は低調であった。 ○生成AIを活用して課題研究や探究学習の充実を図ることで、生徒が問題解決能力を高める活動に取り組めている。	B	○生徒が深い学びに触れられるような教材開発を継続し、生徒の主体的な学習活動を引き出す工夫を行う。 ○I C Tの効果的な活用事例を蓄積し、研究を組織的に進めていく。 ○授業研究会をさらに充実させつつ、授業見学が活発になるよう取り組む。 ○課題研究を通して主体的に探究できる力がより高まるよう、指導方法の工夫・改善をさらに行う。
進路目標の設定と、その実現に向けた確かな学力の育成	○面接・キャリア教育の充実 ○戦略的な進路指導の実施	○面接指導・個別指導に肯定的回答は87%だが、さらに高め、本校の強固な特長としたい。 ○多様化する大学入試に対応した情報発信をより充実させたい。 ○東大・京大の総合型選抜受験者がおらず、東大は合格者ゼロ。超難関大学志願者が少ない。	○キャリアパスポートや各種調査・資料が十分活用され、多くの生徒が進路目標を定め、自律的に学習できている。 ○生徒や保護者に進路決定のために必要な情報が十分に提供され、これらを生かして生徒自身が「学び」を運用している。 ○大学合格者数が、国公立大学230名、難関10大学・医学科60名超。特に、難関大へ向けでは、高い志をもって学ぶ生徒に対し適切な働きかけを行い、戦略的に志願者の育成を図る。	○より高い進路目標の維持・達成のため、きめ細かい面接指導の継続と各種調査・資料を利活用する。 ○進路決定や大学入試に向けた積極的な情報発信。特に変更点の多い令和7年度入試情報については重点的に情報を収集・提供。 ○より早い年次から、難関大受験を視野に入れた科目選択等の指導を行う。 ○生徒の粘り強く取り組む力や困難を乗り越えようとする力を育てるため、「Grit（やり抜く力）」に着目した視点をもつ。	○生活評価アンケートで「面接指導などのきめ細かな個別指導が行われている」など肯定的回答は平均87% どの学年でも面談が継続的に行われていた。 ○進路通信を継続的に発行し、精力的に情報発信を行った。 ○難関大学説明会や、東大・広大ツアー、未来の医師育成講演会、未来の教師育成講演会、東大生に学ぶ、など多くの進路関係行事を設けることができた。 ○難関大学の入試問題を研究し、各種テストの問作に活かしている。	B	○引き続き、きめ細かな面接指導を継続するために、可能な限り面接期間を確保する。 ○進路指導関係のデータを有効活用するため、共有方法の改善に努める。 ○各学年の主導ではなく、西高としての3年間の学習のやり方・考え方等を全職員で共有、共通認識のもと指導にあたる。 ○総合型選抜・学校推薦型選抜についての生徒向けガイダンスを実施する。
良識を培い、社会性を高めるための指導の推進	○自主・自律的な学校生活、自発的な挨拶の習慣 ○地域・社会との良好な関係を醸成 ○互いを思いやる心の涵養	○「規則やきまりを守り、けじめのある生活をしている」とする生徒の割合を高めたい。また、挨拶が自主的にできる生徒を増加させたい。 ○H P等を通じた生徒のスポーツ・文化芸術活動等の成果報告等のさらなる充実。 ○個の尊重について考えようとする生徒の姿勢をさらに伸長させたい。	○「規則やきまりを守り、けじめのある生活をしている」生徒の割合（アンケート）が90%以上。生徒同士や教員・来校者への挨拶が自然にできるようになっている。 ○生徒実態に即した学校の教育目標が保護者に伝わっており、連携協力が一層図られている。 ○生徒間で、自他の人権を尊重しながら人間関係を構築していこうとする態度が育まれている。	○挨拶、マナー、情報モラル、交通ルール等への意識が高まるよう、きめ細かな声掛けを行う。 ○生徒の様子や学校の教育目標などをより目に見える形で保護者へ伝える工夫を行う。 ○生徒の主体的な取組に積極的に関わり、生徒の社会性を育み、人間関係作りをサポートする。	○生活評価アンケートで「規則やきまりを守り、けじめのある生活をしている」など肯定的回答は平均86%。また、気持ちよく挨拶ができる生徒が増えてきている。 ○自転車マナーの苦情・自転車事故も何件か報告され、課題が残る。また、スマホの指導案件が多い。 ○生徒会活動は活発で、制服改定への参画、生徒会規約の見直しなど、生徒の学校運営への参加機会が増えている。	B	○挨拶やマナー・ルールについて、生徒育成部を中心に教職員が模範となって指導をおこない、生徒の成長を多方面から促す。 ○現行の生活指導確認事項、身だしなみ指導についての総括と見直しを行う。 ○生徒が学校のあり方に関する意思決定に能動的に関わる機会を継続して確保する。
部活動や体験的活動、対外的な大会や発表会等への積極的な挑戦	○部活動への積極的参加 ○部活動以外の各種体育・文化・芸術活動等への参加 ○対外的な学術研究会、発表会等への参加促進	○学習と部活動を両立できているとする生徒の割合をさらに増やしたい。 ○部活動各競技や発表会等で活躍する生徒をさらに増加させたい。 ○校内外のイベント等の情報発信や各種報道により、生徒活動の評価をさらに高めたい。	○多くの生徒が学習と部活動を両立させている。 ○職員間の連携を密にしながら、生徒個々に対応した支援が行われている。 ○各種研究会・学会や大会等参加生徒数の規模を維持する。また、研究内容の質の向上や、社会や学術に貢献する研究が一定程度なされている。	○教員の専門性等を生かしつつ、活動計画等を活用した効率のよい部活動指導を研究する。 ○各種研究発表会・コンテスト等に関する情報を分かりやすく提示し、生徒が段階的に参加できる環境を整える。 ○生徒の活躍を積極的に広報し、また外部機関等との連携を図りながら、生徒が積極的に「挑戦する」ことへの支援を行う。	○生活評価アンケートで「学業と部活動の両立ができている」など肯定的回答は平均86%。 ○研修プログラムや学会等への派遣等、学校外で発表する機会を準備し、多くの生徒が参加した。 ○部活動も活発に活動し、多くの生徒が全国大会、中国大会に出場、活躍した。 ○校内外のイベント等の情報発信や各種報道も密であり、生徒の活動が高く評価されるよう取り組んでいる。	A	○今後も継続的に生徒の各種活動を可能な限り持続して支援できるよう、体勢や方法を工夫・研究する。 ○地元企業との連携、新たなコンテストを開拓する。 ○部活動、研究、研修などの諸活動と学習のバランスに配慮しながら、総合的に生徒の支援を行う。
学校重点課題への取組	○業務の縮減、もしくは効率化・簡素化 ○長時間勤務者の解消 ○高校入試志願者増へ向けた生徒募集の取組 ○チーム担任制の円滑運用 ○東京大学合格・進学者の育成（再掲）	○Google ClassroomやForms、「百問繚乱」を利用し、業務削減の努力を継続。 ○昨年度時間外業務時間45時間／月超の職員が月平均8.6人、360時間／年超の職員が27人。部活動の時間外指導時間30時間／月超の職員が延べ50人。 ○チーム担任制導入初年度 ○東大は合格者ゼロ	○時間外業務時間45時間／月超の職員が月平均5人以下、360時間／年超の職員が10人以下。 ○部活動の時間外指導時間30時間／月超の職員が延べ10人以下。 ○周年記念事業で取組んだ広報活動を継続し、中学校や地域に対して本校の魅力が伝わり、高い学力層の志願者が増加。 ○「チーム担任制」の機能が発揮され、生徒指導が充実している。	○チーム西高としての校内連携強化。 ○学校行事等の統合や精選。 ○教員自身がより勤務時間管理を行うことができるよう手立てを継続して施す。 ○部活動計画表を確認し、時間外指導時間の縮減を図る。 ○中学校や小学校との連携など、様々な場面で本校の魅力発信を全職員で行う。 ○「チーム担任制」の長所・短所を洗い出し、年間を通じて常に時点修正する。	○各種ICTの積極的な活用・業務量の削減努力を全校で続けている。 ○秋季に行事が密となっているが、それを念頭に、計画的な業務配分を促した。 ○職員の時間外業務時間は昨年度比で月平均約3.5時間程度減少している。時間外業務時間の個票配布や定時後に退勤を促す音楽を流すなどの工夫が一定程度奏功している。 ○鳥大附属中学校と連携協定を締結し、連携強化を図った。 ○チーム担任制は概ね良好に機能している。	B	○業務効率化につながるICTの活用をさらに進める。 ○行事の精選をさらに進めるなど、業務量の適正化を図る。 ○時間外業務時間の個票配布や定時後に退勤を促す音楽を流すなどの取組を引き続き行う。 ○部活動計画の点検・修正により、時間外指導時間の縮減を図る。 ○さらなる学校の魅力発信を工夫する。 ○次年度に向けチーム担任制がより一層機能するよう、柔軟に改善を図る。